

20世紀のプラスの要因は「産業発展がもたらす大量生産・大量消費による生活の向上」であり、マイナスの要因は「戦争と自然破壊」でした。21世紀は「20世紀の反省の時代」と呼ばれ、20世紀のプラス要因による副作用の解消とマイナス要因の反省と再生です。

流通業は25年サイクル、経済は50年サイクルで過去の延長線上の考え方では解決できない変革が起こります。日本の流通業は第1次流通革命(1945年から25年目の1970年)、第2次流通革命(1970年から25年目の1995年)を経て、第3次流通革命(1995年から25年目の2020年)に向かっています。

私は、2020年の第3次流通革命(10年前の2010年頃から流れが起こり、5年前の2015年頃から本格化し、2020~2030年頃に確立する)のキーポイントを次の4つの変化と考えています。

- ①戦後3回目(昭和ニューファミリー→平成ニューファミリー→新生ニューファミリー)の世代交代によるライフスタイル革命
- ②ネット販売・Eコマースによる買場革命
- ③地球環境と人間関係を重視した流通革命
- ④ヤングマインド消費とシニアマインド消費の2極消費構造革命

さらに、2020年に向けて、私が今まで考えていた以上の事(私の未熟さが原因の面もありますが)が起こる可能性があります。それは「21世紀型思考」(20世紀の反省思考)と「リーマンショックによる世界的不況からの再生思考」(新分野への移行ビジネスの発展)により、本来起こるべき**経済・流通の大変革が加速**されることです。

人々の意識変化(20世紀型から21世紀型への意識変化)と経済の大不況(リーマンショック等の金融バブル崩壊による大不況)が重なると、時代の流れ(時代のトレンド)が加速されます。ちょうど、第1次バリュー革命(1991~1994年)に昭和ニューファミリーの買物の学習経験の連続性の終焉と日本のバブル経済崩壊による大不況が重なって起こり、また、第2次バリュー革命(2008~2011年)に平成ニューファミリーの買物の学習経験の連続性の終焉とリーマンショックによる大不況が重なって起こったことと同じです。

今後は、21世紀の初めにグローバルなトレンドとして認識されていた次の3つの経済現象が、「リーマンショックによる不況」により、人々の意識の変化と新しい時代のニュービジネスの先取りによって進歩が加速されることが確実です。その内容は次の通りです(六車流：流通理論)。

①新興国家の経済と消費の拡大とグローバル化社会(グローバル消費革命)

先進国の金融・不動産型経済が崩壊し、下請け型の物づくりの後進国・発展途上国である新興経済国家の台頭が著しくなり、新興国・発展途上国は世界経済の中で大きなウエイトを持つようになってきました。日本周辺では、中国が日本のGDPを2010年中には超え、2020年には中国やインドを中心としたアジア新興国経済(日本を除く)が273,541億ドルとなり、日本の58,713億ドル(推定)の4.7倍の経済国が日本近隣圏に出現します(現在は、日本の近隣圏のGDPは日本のGDPの1.7倍)。

②ユビキタス情報化社会(デジタル革命)

ユビキタス情報化社会とは、ソフト・ハードの情報ネットワークにより、いつでもどこでも恩恵を受ける高度情報社会のことです。流通業界でも、今回の経済変化によってネット販売が急速に発展し、2020年には小売業の10~15%(現在の百貨店の売上は小売業の5%、SCは21%)を占める可能性を持ちます。

③エコ環境社会化(エコロジー革命)

リーマンショックからの経済再生の柱は、エコ環境への産業移行によるニュービジネスの創出です。21世紀の意識概念である環境問題とそれへの経済再生投資(自動車のエコ化等)は、今後の世界のビジネスを根本から変えます。SCも、アメリカでは20世紀型のRSCから21世紀型のライフスタイルセンターやタウンセンターへとシフトしています。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代 表 六 車 秀 之